

## 宇宙船地球号の上に暮らす私たち ～ One Health on the Earth～

### 多様な生き物とともに暮らす私たち

長野県飯田保健福祉事務所所長

松岡 裕之

宇宙船地球号というコトバを初めて聞いたのは、岩村昇先生の講義の中でした。ネパールの人々のために、特に結核で苦しむ子供たちのために、その地に行って働いている岩村先生のことを知り、私も発展途上国で医療活動をしたいと思い医学部へ進みました。その5年生の頃、岩村先生が公衆衛生の講義の一コマに来られたのでした。「ドクターイワムラは英単語を300ヶしか知らない。それだけの語彙数であっても平和のこと、不平等の是正について話し合いをし、合意形成ができる。だって私たちは皆、宇宙船地球号の乗組員なのだから。」45年前、そんな風に話されたことを鮮明に覚えています。

私は医師になってからは結核ではなくマラリアを専門にしました。結核とならび発展途上国の子供たちを苦しめている重要な疾患です。蚊によって媒介されるマラリアを研究する一方、その周辺の寄生虫病や衛生動物疾患についても学び、講義・実習も担当してきました。そこで私の得たものは「宇宙船地球号の乗組員は人類だけではない。いろんな生き物が押し合いへし合い乗っている。」という事実でした。医学部の教育というのはヒトに偏重していて、人類以外に目を向ける機会がとても少ないのです。蚊やダニはそれらに刺される・噛まれるだけでも不快なことですし、ましてはそれらによって病気になるなんて、ホントに嫌なことです。でも動物たちの方は人類発生の前から、そうやって営々生きてきたのです。

信州は海こそなけれ山深く、蚊やダニのほかハチもいればムカデもいます。田んぼに入ればチスイビル、山を歩けばヤマビルが落ちてきます。ヘビも出てきます。クマやイノシシに出会うこともあるでしょう。サルやシカも里に下がってきます。家にあってはほこりの中に、血液を吸わないヒョウヒダニがわんさと住んでいます。頭にはアタマジラミ、衣服にはコロモジラミ、陰毛にはケジラミが居つくことがあります。手指に疥癬が住み着いて大量増殖に至る人もいます。こうした生き物たちの存在を教え、研究するうちに私は「宇宙船地球号の上で多様な生き物と暮らしている私たち」を自覚するようになったのです。

今回の講演では、とくに信州に生息しヒトとの関連の深い生き物たちについて触れたいと思います。

松岡 裕之(まつおか ひろゆき)略歴

- 1974年 長野県立飯田高等学校 卒業
- 1980年 新潟大学医学部 卒業
- 1980年 長野中央病院 / 諏訪共立病院 内科医師(3年間)
- 1982年 東京大学医科学研究所 熱帯医学研修(3ヶ月)修了
- 1983年 JICA 専門家(マラリア)インドネシア共和国へ赴任(1年間)
- 1984年 岡山大学助手 寄生虫学教室(4年8ヶ月)
- 1989年 三重大学講師 医動物学教室(1年6ヶ月)
- 1990年 英国インペリアルコレッジ留学(2年間マラリアワクチンの研究)
- 1992年 三重大学講師 医動物学教室(3年5ヶ月)
- 1996年 自治医科大学助教授 医動物学教室(9年4ヶ月)
- 2005年 自治医科大学教授 医動物学部門(10年9ヶ月)
- 2016年 長野県健康福祉部 伊那保健福祉事務所 医監・所長(1年間)
- 2017年 長野県健康福祉部 飯田保健福祉事務所 所長(6年4ヶ月)

現在に至る